

研究課題の名称

「Trail Making test Part B を用いた注意機能と固定装具の着脱可否の関連」

研究の目的及び意義

肩板断裂術後の後療法では、患肢の安静を目的に上肢の固定装具が着用され、固定装具の着脱動作の自立に向けた動作指導が実施される。一方で、認知機能の低下が認められないにも関わらず、装具の着脱動作時に、患肢への注意分配が不十分となり、無意識化での自動運動や動作手順のエラーが生じ、装具の着脱動作が自立できない症例を経験する。Trail Making test Part-B は、平仮名と数字を交互に昇順にたどる検査で、注意機能の転換性と配分性を測定することが出来る。そこで今回は、Trail Making test Part-B を用いて、装具の着脱動作の自立可否と注意機能との関係性を明らかにすることを目的とした。

研究対象者の選定方法

当院にて鏡視下腱板修復術（ARCR:arthroscopic rotator cuff repair）を施行した 48 例(男性 30 名、女性 18 名、平均年齢 68.2 ± 8.5 歳)を対象とした。明らかな認知機能低下を認める症例は除外した。

予定研究期間

承認日～2022 年 10 月 6 日